



学校通信

中 神

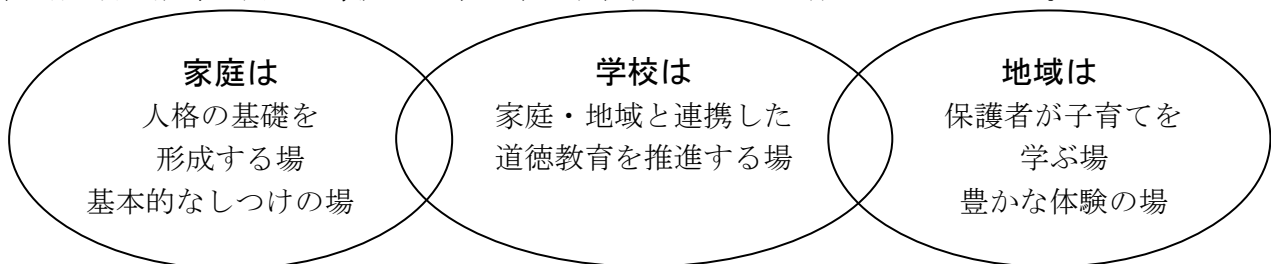
平成 30 年 1 月 31 日

昭島市立中神小学校
校長 松井 茂

道徳教育の重要性

過日行われました、道徳授業地区公開講座及び授業公開にご参観いただきまして誠にありがとうございました。379名もの保護者・地域の方にご来校いただきました。子どもの健全な育成は、学校・家庭・地域の三者が連携していくことが必要なことはご存じの通りですが、講師の先生のお話から改めて確認することができました。

それは、この三者がそれぞれの役割を果たすことによって、その充実を一層図ることができるということです。益々社会の価値観が多様化している現在、三者の連携の重要性が増しているということです。とりわけ、基本的な生活習慣の確立や規範意識などの基本的な倫理観の育成、道徳的実践の指導の面では家庭や地域の果たす役割は大きいと話されていました。



では、学校で行う道徳教育とは、子どもたちが人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成しようとするものです。そのため、学校での全ての教育活動を通じて自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標として取り組んでいます。(小学校学習指導要領「第1章総則」の第1の2(2)中段)

この間、参観していただいた道徳の授業は、今年度の経営方針の一つ「かかわりを大切にした教育」に主眼を置いて行いました。この道徳の時間は、学校教育全体を通じて行う道徳教育の要です。授業をご覧いただき気付かれた方もいらっしゃると思いますが、道徳の時間は、生活指導をする場でもなく、国語の読解をする場でもありません。資料などを基に、道徳的価値の自覚や自己の生き方の考えを深め道徳的実践力を育んでいきます。

【道徳的価値】

自由と責任、節度・節制、思いやり・感謝、礼儀、友情・信頼、社会参画、勤労、公德心・規則の尊重、郷土愛、生命の尊さ など

【道徳的実践力】

人間としてよりよく生きていく力

意見交換会の中では、「子どもの考えを尊重して聞く」「子どもの話を聞いたら、親はこう考えるということを伝え、子どもの考えを広げる」「一旦、子どもの考えを受け止める」「いいところを褒めるなどして、親から愛されていることを感じさせる」「子どもにしてほしくないことを親がしない」などといった家庭での取り組みや方針が話されました。

<事前アンケートから抜粋>

「子どもが優しい行動をしたらどんなに小さいことでも褒める」「自分がされて嫌なことは家族でも友達でもしない」「思いやり」は難しいので「優しくしようね」と言っている」「自分の意見をもつのも人の話を聞くのも大切」「まず子どもの意見を聞く」

今回の意見交換会では、普段なかなか子どものことや家庭のことで話す機会がないことから、有意義だったのではないのでしょうか。事前アンケートにご協力いただいた皆様ありがとうございました。